

## リハビリテーション・栄養サポート入院のご案内

当院では地域に先駆けて地域包括ケア病棟の運営を開始し、地域包括ケアの実践に向け、リハビリテーション（以下、リハ）、栄養サポート、退院支援に力を入れています。

以下のような患者さんはいらっしゃいませんか？

### ケース① 脳梗塞後遺症



食事中におせることが多く、食べる量が減ってきている。妻も心配して食事を刻んだりしているが、あまり効果がない。飲み込みのリハをしてほしい。また、妻にどのような食事を作れば良いか指導をしてほしい。

### ケース② 認知症



食事を口に入れても、口の中にため込んでなかなか飲み込まない。飲み込む時は噛まずに丸飲みをしており、入れ歯が合わないのが原因かと思い調整してみたが変わらない。水分もあまり取らないので、点滴をする回数が増えた。

### ケース③ パーキンソン病



年々身体の動きや嚥下が悪くなっているが、リハをすると多少良いようだ。介護サービスもこのままで良いのか迷っているが、どのように調整すべきだろうか。定期的なリハ・サービス調整のための入院ができると良いが。

### ケース④ COPD



息切れのために自宅に引きこもりがちで、歩行が不安定になってきている。食事もあり食べられないようで、どんどん痩せてきている。本人は「動く」と苦しい」というが、診察時のSpO2はそこまで低くないため、在宅酸素の導入を迷っている。

### ケース⑤ がん



手術は終わったが、術後の体力低下が著しく、ADLの低下が進行している。手術をした病院では外来リハは出来ないとされた。食欲不振もあり、体重が減ってきている。化学療法をする予定だったが、今の状態では適応外になりそうだとされた。

当院では様々な疾患へのリハの実施が可能です（上記以外の疾患にも対応可能です）。また、嚥下調整食や治療食（糖尿病食、心臓病食、腎臓病食など）の作り方の指導、杖や歩行器などの福祉用具の選定、退院後の介護サービスの調整への助言などを積極的に行っています。退院後も必要に応じて、当院からの訪問診療や訪問栄養指導を行う事が可能です。



リハや栄養サポートは、病状が完全に悪化する前に実施する方が効果的です。上記のようなケースでお困りの際は、お気軽に当院地域連携センターへご連絡ください。

出雲市民病院 地域連携センター

◆転院の相談 担当：大平、深井(MSW) ◆受診・検査の相談：栗原(看護師)  
TEL：0853-21-8106 (直通) FAX：0853-21-8123 (直通)